

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
子どもの健康と安全 Child health and safety		1年	後期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
1単位	演習	選択	(保育士養成課程必修)	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
保育士資格取得に必要な科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
子どもの保健				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
長谷川久美子	講義棟1階	授業中に指示します		授業中に指示します
授業の概要				
子どもの健康の保持および安全の確保は、最優先の課題であり保健活動の根幹でもある。保育の場において保育者自身の健康管理を徹底し、子どもの心身の状態や発達の過程を踏まえて行う個別的な保健的対応、および子ども集団全体の健康と安全に関わる知識と実践力の修得を図る。				
授業の目標				
①安全への取り組みとして、保育環境の整備について説明することができるようにする。②子どもの体調不良等の適切な対応について具体的に説明することができるようにする。③保育における感染症対策について具体的に説明することができるようにする。④保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子どもの発達や状態に即した適切な対応ができるようにする。⑤子どもの健康および安全管理に関わる組織的な取り組みや保健活動について説明することができるようにする。				
授業の方法				
講義と演習（実技指導含む）、事例紹介、映像機器などを取り入れて保育保健の基本的な知識・技術の修得を図る。保健演習では演習の目的を確認し、終了後にレポートを作成、さらに保育活動の実際の学びに繋がるよう健康教育の教材として『保健だより』を作成する。				
学習の成果（学習成果）				
①子どもの健康および安全への取り組みは、関連機関と連携し組織的な取り組みとして機能することが説明できる。②子どもの体調不良や傷害時・緊急時において、的確な判断と適切な対応を身に付けることができる。③保健的対応の基本的な考え方にに基づき、子どもの発達段階や状態に即した適切な対応ができる。④保育の場における感染症の対策について具体策を列挙することができる。⑤保育活動に活かすことができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス（シラバスの概要説明、学習への取り組み方、レポートのテーマおよび提出期限等）			
第2回目	子どもの保健と保育者の保健	保育者の健康管理	*手洗いの意義	
第3回目	子どもの保健と環境	集団保育と保健対策	*『保健だより』作成の準備	
第4回目	保育における健康および安全の管理			
第5回目	子どもの健康および発育状態の把握	乳幼児の身体計測		
第6回目	身体発育評価演習	発育指数の計算および成長曲線による評価の実際		

第7回目	発育経過からみた評価の仕方		
第8回目	身体計測演習	乳幼児の身体計測の実際と記録	*実習室へ移動
第9回目	子どもの健康状態の把握	子どもの生理機能の測定	
第10回目	子どもの体調不良時によくみられる症状と適切な対応		
第11回目	子どもの事故と応急手当	子どもの事故の特徴と応急処置	
第12回目	子どもの救急時の適切な対応	心肺蘇生法	*エピペンの使い方
第13回目	感染症対策	感染症の予防と感染症発生時の対応	
第14回目	個別的な配慮を要する子どもへの対応	慢性疾患、アレルギー疾患等	
第15回目	健康および安全への取り組み		
事前・事後学習	ITや図書館を活用して、授業での不明な点は必ず次回授業までに調べておくこと。また、科目担当者に質問すること。		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
	授業参加態度	20%	教材を常に準備して臨んでいる。不明な点があれば積極的に質問し、意欲的に学習に取り組んでいる。演習では主体的に行動し、グループメンバーと協調し集中して臨んでいる。
	レポート	30%	出題者の意図に合致したものとなっている。また、詳細に課題を探究し、内容構成も優れており課題の要件を満たしている。
	調査報告書		
	小テスト		
	試験	50%	記述式で設問内容の要件を満たし、授業内容が正確に表現されている。学期末定期試験の評価基準C（60－69）以上とする。
	発表内容（態度含む）		
	その他		
教科書と参考図書			
教科書：「子どもの保健演習ガイド」建帛社 参考書・参考資料：授業の中で適宜指示またはプリント資料を配布する。母子健康手帳			
履修上の留意点・ルール			
●実務経験（職種：看護師・看護学校専任教員、職歴：通算13年） 目的意識・課題意識を明確にして授業に臨むこと。遅刻厳禁。			